

## 無核性ブンタン「汐里（しおり）」の紹介

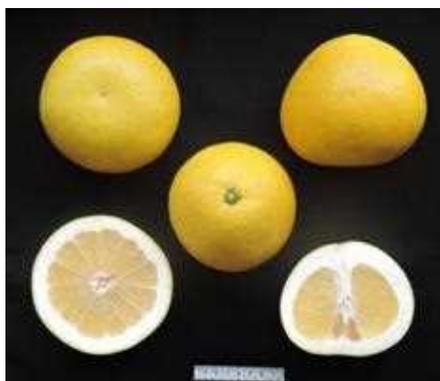


写真1 「汐里」果実

(♀四倍体ヒュウガナツ×♂「Siamese Acidless」)



写真2 「汐里」着果の様子

表1 露地栽培「汐里」の開花特性

品種名	発芽日	開花始	開花盛	開花終
汐里	3/21	4/27	5/10	5/17
土佐文旦 (対照)	3/22	4/25	5/ 5	5/ 8

2020-2023年の平均値

注) 発芽日：芽の過半数が3mm以上に伸びたとき  
 開花始：つぼみが連続して開花し始めたとき  
 開花盛：つぼみの80%程度が開いたとき  
 開花終：過半数の花が褐変または落弁したとき

表2 露地栽培「汐里」の果実特性

品種名	収穫日 (年/月/日)	果重 (g)	果形 指数	着色 程度	果肉歩合 (%)	種子数		糖度 (° Brix)	クエン酸 含量 (g/100g)	す上がり
						完全	不完全			
汐里	2018/ 12/18	513	115	6.2	58.7	1.4	40.2	8.8	1.35	無
	2019/ 12/24	452	112	7.8	55.5	0.8	5.0	9.3	1.57	無
土佐文旦 (対照)	2018/ 12/18	667	779	10.0	58.3	57.0	24.8	9.2	1.23	無
	2019/ 12/24	472	114	9.4	51.7	53.3	31.0	9.0	1.43	無

注) 完全種子：正常に発育した種子、食べるのに支障あり 不完全種子：発育が完全種子に比べて劣る種子、食べるのに支障がない

ブンタンは本県の特産カンキツですが、果皮が剥きにくく種子が多い欠点があります。そこで、これらの欠点を補うために、広島県が育成した種子の少ない新しい品種「汐里」(写真1、2)について、果樹試験場で栽培試験を実施したので、その特性を紹介します。

「汐里」の発芽・開花時期は、「土佐文旦」と同程度であり(表1)、果実特性は、完全種子数が極めて少なく、12月収穫での平均糖度およびクエン酸含量は「土佐文旦」と同程度です(表2)。食味は親であるヒュウガナツのような爽やかさがあり、

果肉はゼリー状で「土佐文旦」とは異なる食感となっています。このように、「汐里」は有望な品種ですが、土佐文旦と同様に凍害によるす上がりが発生する危険があるため、今後は本県における露地栽培での収穫適期の解明および施設栽培での高品質安定生産技術の開発等に取り組んでいきます。

なお、本研究の一部は、農研機構生研支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業(JPJ007097)にて実施しています。

(果樹試験場 戸梶 裕太 088-844-1120)